



寄贈車、ゲム イースト村へ

石川 佳子

昨年10月の当NPO法人の総会において承認をいただきました、ケニアの無医地区である、ゲム イースト村への寄贈車（トヨタ ハイエース）は、現在ケニア ナイロビでの登録手続き中です。



総会での承認後、豊田通商オートサービス株式会社貿易部の担当者

のご尽力により、良質のハイエースを早期に入手できました。諸手続きの後、3月1日に名古屋港を出航し、モンバサ港には3月末に到着、その後陸路を経てナイロビのトヨタ イースト アフリカで手続きを行っています。

その後現地で使用していただけるよう、座席、荷台の取り付け等が終了した後、6月下旬にはゲム イースト村へ届けられ、現地で患者さんの搬送や、市場への野菜の運搬などに活躍することでしょう。

今年9月中旬に予定しています無料医療活動についてのご報告を致します時には、寄贈車の活躍の様子もお伝えできると思います。



コンゴで学校建設始まる！

内海 眞

昨年（2009年）秋のアサンテ ナゴヤの総会で、コンゴから名古屋の大学に来られた留学生ダディ・オンケンさんが、彼の故郷の村に是非学校を建設したいと話されました。彼の故郷には8つの



村が存在し、人口は合計約3万人ですが、学校が1校しかありません。しかも、その学校は粗末な造りで机や椅子も十分ではないのです。8つの村全体の識字率は約10%で、HIV感染も認められるそうです。村の発展やHIV感染予防にもまず教育が重要と考えた彼は、学校建設への支援を私たちに訴えたのです。

しかし、私たちのアサンテ ナゴヤはNPO（非営利活動法人）として認定された団体ですので、会計は完全に透明化しておく義務が課せられています。つまり、支出に対してはそれを証明する領収証が絶対に必要なのですが、コンゴの人々にそれを要求することは極めて困難と思われました。



ではどうするのか。私たちの NPO を経由しないで、すなわち NPO の会計に入金せずに送金することにしました。アサンテ ナゴヤのメンバーであるとともにダディさんの友人でもある名古屋の栗村夫妻が中心となって、学校建設に必要な資金 3 万ドルを集めることになりました。短期間の間に目標額が集まり、ベルギーの銀行などを通してダディさんの村に送金することになりました。もちろん、最初は少額を送り、安全を確かめてから少しずつ送金するという方法を取りました。今年の早い時期にダディさんのビザが切れてしまうため、急きょコンゴに帰国しなければならなくなりましたので、その時に彼が資金の一部を運ぶ方法も取り入れました。銀行といえども 100%信用できないからです。彼の村は、ある町から 40km も奥地にあります。道路も十分整備されていないため、彼は徒歩で町から村まで行かねばなりませんでしたが、途中大きな事故もなく無事資金は村まで運ばれました。

村では、先に銀行経由で届いた資金で、すでに学校建設が始まっています。セメントが町で購入され、やはり 40km の道のりを村人に

よって徒歩で運搬され、村を流れる川の砂と混合されたのち、ブロック（煉瓦のようなもの）が造られます。それらを積み上げ、学校の基礎が造られつつあったのです（写真参照）。村の婦人たちは畑を耕し、主食となる植物（マニャック）の栽培を始めていました。これは、学校建設を技術的に指導・協力してくれる人たち

を近隣の町から招き、その宿泊や食事を賄うために、また作業の謝礼に当てるためです。そして学校が完成した暁には、学校の先生に支払う給料の代りになるものです。村人たちが一丸となって学校建設のために働いている写真は、本当に感動的です。

これまでに村に届いたお金の使途については、会計報告も受けていると栗村夫妻から伺っています。

当初、お金は無事届くのだろうか、仮に届いても別の目的に使用される可能性はないのか、あるいは学校の建築はうまくスタートできるのだろうか、といった様々な不安を栗村夫妻も私たちも抱いていました。しかし、それらは今、完全に吹き飛んでしまったと言わねばなりません。

コンゴの奥地で、今、村人たちの共同作業によって学校建設が着実に進められています。コンゴの写真を見ていると、栗村夫妻とその支援者、留学生のダディさんと遠く離れたコンゴの村人たちの心が一つの輪になったように感じられます。今後、アサンテ ナゴヤとしては栗村夫妻からバトンを引き継ぎ、学用品、机や椅子等の整備や、持続的な教育が可能になるよう支援をしていかねばならないと思います。



* 講演会のご案内 *

アフリカ・ケニア在住 獣医師 神戸俊平先生をお招きして下記の要領で開催いたします。

日 時:平成 22 年 10 月 16 日(土) 13:30~

場 所:名古屋ナディアパーク プレゼンテーションルーム 6階

講演内容:「アフリカの現状について」~野生動物から貧困問題まで~

*** 参 加 費:無料**

*** 参加資格:不要**

講演者プロフィール

神戸俊平 (かんべしゅんぺい) ケニア在住 獣医

1946 年 東京生まれ。1968 年日本大学農獣医学部卒業。福島県酪農共同組合に獣医として 3 年間勤務したのち退職。退職金と農家からの餞別を元手に念願のアフリカへ渡る。アフリカ各地を野生動物を求めて放浪した後、1976 年ナイロビ大学大学院 獣医科マスターコースに入学。苦学の末、日本人獣医師第一号となり、ナイロビ市内で動物病院を開業。後にナイロビ郊外で、地域住民(マサイ族)の家畜のボランティア診療を開始。牛にねむり病を伝染させるツェツェバエの被害の深刻さを知り、ナイロビ市内での獣医業を閉業し、マサイの家畜の診療、ツェツェバエコントロール(薬品などを使った駆除は環境に大きな被害を与えるため、ツェツェバエの生態や生息地域などを調査しコントロールすることによって被害を抑える計画)に力を注ぐ。現在は、「アフリカと神戸俊平友の会」の支援によってケニアの抱えている諸問題(野生動物・環境保全活動、マサイの家畜診療、スラム貧困問題)などの活動を展開中。1997 年毎日新聞社・国際交流賞を受賞。

【著書】「サバンナの話しよう」 時事通信社 1999 年

「アフリカゾウ 56 頭移動大作戦」 学研 2002 年 他多数

【テレビ・映画出演したドキュメンタリー作品】

「夢の扉」TBS 2006 年

「世界を変える 100 人の日本人 2 時間スペシャル」テレビ東京 2009 年 他多数



* 講演会参加に関する詳細は 8 月下旬までに HP 等のご案内いたします。

どなたでも参加いただけますので、ご友人等お誘いください

この講演会は「財）愛知県国際交流協会」の補助事業として開催いたします。

*** 会費、賛助会費、協賛金をいただいた企業・団体および個人（敬称略）**

見田くるみ・西山英子・藤井忠幸・佐野春臺・野村浩子・寺嶋美容室・ワクワク募金・AOI募金・服部敬司・石井圭子
 石井美栄・石黒博人・田中由紀子・青木孝夫・ドリンクス倶楽部ジェムソン・久保頼子・清水清美・榊原純夫
 土屋久仁子・野村みち子・八馬加代子・島岡喜代治・中山善博・一宮中ライオンズクラブ・いろは不動産（株）平野雪夫
 アイエムエイグループ（株）柴部眞知夫・住友正武・住友光子・佐野朝江・山内礼子・福井玲子・石黒正則・尾関利勝
 山本由紀・榊原一良・植田美奈子・脇田かおり・片桐初男・河野サトコ・江崎節子・岡本裕子・服部将也・小木曾義治
 小木曾悠紀子・中林俊壹・山際加代・水谷裕子・植木敏子・市野健二・稲垣やよい・栗村道夫・栗村清子谷井佐知子
 深川善治・片岡紀子・浅野鐘喜・山本直彦・内海眞・宮本信代・森下理香・石川佳子・高山眞・河合京子
 ソロプチミスト名古屋-中・長久手テニス同好会・榊原秀兼・百合草宮子・杉本みな子・（株）アイコーメディカル
 加藤弥生・加藤大介・稲垣由紀子・大沼れい子・高村幸子・岩崎奈美

上記は 2009 年 6 月 16 日から 2010 年 5 月 6 日までにご支援いただいた皆様です。

2010 年 5 月 6 日までの会計報告（円）

収入の部				
運営通帳入金総額①	3,844,294	内訳	2009 年運営通帳繰越額	1,628,877
			2010 年会費・寄付金等（4/26 現在）	413,841
			寄贈車両購入のため定期預金解約	1,800,000
			利息	1,576
支出の部				
事業費	2,654,112	内訳	旅費支援	50,000
			車両購入	2,574,612
			自立支援費	29,500
管理費	109,445	内訳	講演者旅費	5,000
			事務消耗品	4,138
			通信費	12,650
			雑役費（EIS [®] 学会参加費 50,000 等）	87,657
支出合計②	2,763,557			
現在の資産				
運営通帳残高 ①-②	1,080,737			
森下基金	1,000,000			
定期預金	1,200,000			
外貨	48,925			
現金管理（日本円）	0			
資産合計	3,329,662			

【編集後記】

ニュースレターに対するご要望やご意見をお寄せください。お待ちしております。

事務局：〒461-0004

名古屋市東区葵 1-25-1 ニッソビル 906 号

TEL/FAX：052-933-1588